

幻想闘牌伝説～伝説の雀士～

Uさんの部屋

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

焼き鳥屋を営む藤原妹紅は借金帳消しの為の麻雀を打っていて、窮地に立たされていた。その時、若い青年が妹紅の前に現れる……………

※本作はUさんの部屋シリーズと一切関係ありません。更に少なからず解説していますが、分かりにくいこともあると思うので、詳しくは公式のルールを確認してください。

※原作と設定の違うキャラもいるので悪しからず。更に能力設定等もありません。

目次

第1話	闇夜に現れる青年	1
第2話	闇を好む青年	5
第3話	闇への落とし穴	9
第4話	逆転のロン牌	11
第5話	人間の野生本能	14
第6話	2人のU	16
第7話	偽者の鬪牌	18
第8話	闇世界の審判	21
第9話	地底の麻雀	23
第10話	地獄の開幕	26
第11話	か細い橋	28
第12話	最後の希望の糸	30
第13話	伝説の鬪牌者	32

第1話 闇夜に現れる青年

深い深夜の頃。竹林近くの焼き鳥屋は、灯りが灯っていた。その中ではこの店の存続をかけた麻雀を行われていた。この店は焼き鳥屋でありながら麻雀の為のスペースがある。しかし、この店は赤字が続き、店主は借金を抱えていた。その店主の名は藤原妹紅。彼女は今、借金帳消しの可能性がある麻雀を打っていた。相手は竹林の姫君として名の知れ渡る蓬莱山輝夜とその取り巻き。現在南3局。勝負は5本勝負で、現在妹紅は2連敗中。このままでは店は潰される。現在トップは蓬莱山輝夜で、32000点。2位に鈴仙・優曇華院・イナバで、27000点。3位にやつと妹紅。23000点。因みに4位は因幡で、18000点。妹紅も少なからず上がってはいるのだが実らない。

妹紅（くそっ！……………このままじゃ負ける……………輝夜に店を潰されるのだけはごめんだ……………しかし、どうすりゃ勝てるんだよっ……………！）

妹紅は四萬を切った。

輝夜（悪いわね。ロン。（※ロンとは、相手の捨てた牌で上がる事）断么（※1・9・字牌を使わない役）ドラ2（※ドラとは一局が始まる時に定めるものであり、所謂ボーナスのようなもの。ただし、ドラのみで上がる事は出来ない（ドラの決め方についての説明はまた後に）で5200。）

これで、輝夜は37200点。妹紅は17800点でビリに……………南四局オース（※オースとは最後の局の事）が始まろうとした時に、店の扉が開いた……………そこには若々しい青年が立っていた。

妹紅（アイツ……………！確か常連のガキ……………！）

輝夜（ここは雨宿りの場所じゃないのよ坊や？分かったら出て行きなさい。）

妹紅（待った。彼は私の親友なんだよ。この麻雀の事を私の他に唯一知っていて、私が心配になったら来ても構わないって言っている。

輝夜（そう？ならいいんだけど……………）

妹紅) (そんな約束なんて勿論無い、ただ、このガキを守りたいだけに匿った……………なんでこんな事してしまったんだよ私つ……………！)

改めて南四局オーラス。親は妹紅。山を積み(※山は横17、縦2にする。因みに麻雀で使用する配は全部で136個。)、賽の目を投げ配牌。(※配牌とは、まずサイコロの目の分、自分の山から相手の山に数えていく。(例えば、6なら、自分の山を1にして、右回りに数えていき、6に自分の右の山が当たる)そして、その山から右に数えてその数字の左どなりの山から4つ取っていく(6なら、その隣の7、8個目の山から牌をとり、次に右隣の者が9、10の牌をとる。)(因みにその数字の右2個隣の牌を表にする。その牌は先述のドラとなる。)(これを3度行い、最後に1人1個ずつ持っていく、計13個にする(親は4人目の取った次の牌を引き、14個にする事。その為、親は最初はツモしないで切る事が多い)(※ツモとは山から牌を1つ引いてくること。)(手を見ると、萬子は、4が1枚、6が2枚。筒子は、2が3枚、4、5が1枚。索子は3と7が1枚ずつ。そして、東が3枚ある。そして、ドラ表示牌は北。ドラ表示牌の順番の次に当たる牌がドラとなるため、ドラは東となる。(※ドラ表示牌の次に当たる牌とは、次の数字の牌となる。もし、9なら1となり、字牌は東↓南↓西↓北↓東、白↓發↓中↓白となる。)(現在トップである輝夜とは19400点差。輝夜から、満貫を直撮り(※ロン上がりする)するか、(満貫とは4、5つの役で上がった時の名称。点数は固定。(ドラを含めても良い)、(ただし、4役の場合は40符必要、更に60符以上なら3役でも満貫扱いとなる)跳満(6、7役で上がった時の名称)をツモれば逆転出来る。(※ここでのツモは、自ら上がり牌を引き寄せて上げる事)

妹紅) (……………今の配牌なら……………東、ドラ3。充分満貫の手だけど輝夜から直撃は難しい……………)

そして、3巡目、三索が引けた。

妹紅) (……………！、狙える……………！対々和がつ……………！(対々和とは、刻子(同じ牌を3つ揃える事)を4つ揃えて上がる役。鳴きはおk(鳴きとは、ポン、チー、カンの事。これらについてはまた後))

このまま行けば東、対々和（2役扱い）、ドラ3で上がる事が可能。そして、12巡目。妹紅の手牌は、六萬が3枚（鳴き）、二筒が三枚、三索と五索が2枚、東が3枚で、7萬が1枚。聴牌（※上がる一步手前の事）。しかし……………

妹紅（輝夜もリーチしている……………（※リーチとは、鳴きをせずに聴牌した時のみかけられるもの。上がり牌で無い限りは、そのまま切らなければならない。勿論役として扱う）ここで振り込めば終わりだ……………（振り込むとは自分の捨てた牌でロン上がりされてしまう事）けど通ってない……………なら、いつそ安牌の三索で逃げる……………！）妹紅は三索を切ろうとした時……………

？）怯えてるよね、アンタ。

妹紅）え？

妹紅の後ろで見ていた青年の一言に、妹紅の手が止まった。

？）折角のチャンスを逃す。ただでさえ追い詰められているのに、最後の起死回生のチャンスを次があるからこそ流す。どうせ死ぬなら堂々と打たないと……………後悔するよ……………？

妹紅の心は動いた。

妹紅）（そうだ……………どの道ここで振り込んだらおしまい……………だったら怯えてる暇なんてない……………！強く打って……………死んでやる！）

妹紅は7萬を強気で打った。そして、ロン宣言は無し。

妹紅）（通った……………このガキ……………これが安牌だってなんでわかった……………？）

そして、次のツモで、上がり牌の三索を引き寄せた。

妹紅）!?!、ツモ!!

妹紅は、東、対々和、ドラ3の跳満。更に親の為、親満で18000点となる。（※親は上がると、子の1.5倍の点数で上がれる。ただし、子がツモ上がりした場合は、子より1.5倍多く支払う。）

輝夜）……………！

こうして、何とか逆転。妹紅は念願の一勝を掴みとる。

妹紅は、跳ね上がる心を落ち着かせ、煙草を吸い始める。

妹紅) 助かった……………

妹紅は座っている青年に声をかける。

妹紅) 助かったぜ。お前名前なんて言うんだ？

?) ……………U。

妹紅) ん？あだ名か？

U) 本名。

妹紅) 珍しい名前だな。

U) よく言われる。

妹紅) お前……………麻雀分かるか？

U) 齧った程度なら。

妹紅) 頼む！私に変わって入ってくれ！

U) ……………良いけど。

こうして、Uは麻雀卓に座り、第4回戦が始まろうとしていた

……………

T o b e c o n t i n u e d ……………

第2話 闇を好む青年

こうして、始まった4回戦。妹紅の代打ちとして入ったU。彼女は期待を寄せていたが、特に目立った活躍はしなかった。一方の輝夜は、何度も上がり、トップとなつてからも、得点を稼いでいた……が、彼女は苛立っていた。

輝夜) (なんなのこのガキ……上がつてないのに……ここまでのものの一度も振り込んでない……)

そう、Uは輝夜のツモ上がりで得点こそ減るものの、ロン上がりは一度もされていない。

妹紅) (振り込んでないのはいいが、輝夜が単独トップじゃねえか……何考えているんだこのガキは……)

しかし、南二局、全員がこの男に驚く事となる。

得点は、1位輝夜、62000、2位にU、18000。3位に鈴仙、12000、4位にてゐ、8000。

賽の目は5。親はU。彼の手牌は、萬子は、2と6が、2枚ずつ、筒子は、4が3枚、6が1枚、索子は、2、3、4が1枚ずつ、字牌は東、南、西が1枚ずつ。ドラは2萬。

妹紅) (輝夜との差は44000……他の2人が下手すれば飛んで、点数で輝夜の勝ち……私が借金を背負う事になる……ここは輝夜狙いの連荘が妥当……)

しかしU、1巡目、訳も分からず東を切る。

妹紅) (なっ！なんで東!?!、ここは常識的に考えて西だろ……!?!) 次巡、Uは二萬をツモる。

妹紅) (よし、ドラの暗刻……)(※暗刻とは刻子(同じ物を3つ揃える事)を鳴き無しで揃えること) (こんどこそ西切り……!?!) しかし、今度は南を切る。めちやくちやである。

妹紅) (なんでだよ!?!、コイツには常識が無いのか……!?!)

6巡目、Uは四筒をツモるとすぐ……

U)カン。(※カンとは、同じ牌を4つにする鳴き。カンには2種類あり、相手の牌と予め抱えてある3枚でカンす明槓。自らの4枚でカ

ンする暗槓。因みにこれをするドラの隣の牌をめくって新たなドラ。シンドラを表示する。その後、最初のドラ表示牌の左端の牌1枚を手に持っていく、これをリンシャンハイと言う。(持っていく順番は、上、下、隣の上、下となる。)但し、4度目のカンで上がりがなければ即流局(場を流す)となる。)

突如としてカンをする。

妹紅) (コイツ……………バカか!?)

しかし、その考えを直ぐに改める事となる……………シンドラ表示牌は……………三筒。つまり、四筒がドラとなり、そっくりドラ4。

妹紅) (ドラ7!?!……………コイツただけ運がいいんだよ……………!?)
更にその直後……………

鈴仙) カン!

上家の鈴仙がカン。シンドラ表示牌は南。つまり、今の手牌のみ見るとドラ8。

U) (運が良すぎだろ!?)

そして、8巡目。

U) リーチ。

U、聴牌。手牌は二萬と六萬が3枚ずつ、二索と四索の順子(※数字の順番で揃えている3枚(2、3、4等))が1グループ。暗刻している四筒。西単騎待ち。

妹紅) (上がれば、リーチ、三暗刻(※暗刻を3つ揃える役で2役扱い)、ドラ9。)三倍満の手だ……………(※三倍満とは、11、12個の役で言われる名称)

リーチから次巡。輝夜は西をツモぎる。

妹紅) (!?!……………来たあ!?)

しかし、Uはこれをスルー。

妹紅) (はあっ!?!ここはロン上がりする所!そうすれば最低でも32000点直撃で逆転!、後は逃げりゃいいのに……………!!私を殺す気かよ!?)

しかし、その直後……………

U) ツモ。

なんとツモ上がり。Uは裏ドラを確認する。(※裏ドラとは、リーチをかけて上がった時のみ得られるボーナスのようなもの。表になつてるドラ表示牌の裏ドラ全てを確認し、その中のドラ表示牌が、自分の上がり手に乗っかっていけば、更に手がよくなる。)

U)三索。数え役満だ。(数え役満とは13役以上上がった時の名称。)16000オール。(数え役満は親なら48000点。親なので、3人から同じ点数貰う。)

これで、鈴仙とてゐるがマイナスとなつてしまい箱割れ。箱割れした者が出れば即終了なので、Uの逆転勝ちとなつた……………

妹紅)ハアツ……………なんでお前輝夜から直撃を取らなかつた?間違いない無くあそこは上がるチャンス。しかもあれは3枚目の西、4枚目が箱割れ確定の鈴仙やてゐに来る可能性のある中で何故上がらなかつた!?

U)妹紅さん。アンタも分かつてるだろ?もし、あそこで上がれば裏ドラが乗つて48000の直撃。でも14000残る。逃げるなら良いが、仮に4回戦が最後まで続けばラス親は輝夜。間違い無く僕を倒そうとしてくる。そう考えればさつきと周りを飛ばした方が容易。

妹紅)それなら次巡で……………!

U)そんな考えじゃ食われる。あの二人だつて下手に振り込んだりはしない。ならその壁を崩す方法はただ一つ……………確実に輝夜を逆転した上で周りを吹き飛ばす、数え役満のツモ上がり。

??)お見事ね、坊や。

輝夜)あ、アナタは……………永琳!?

永琳)たまたま通りがったものでしてね。

輝夜)丁度よかつたわ!貴女にお願いしたい事があるの!

永琳)なんででしょうか?

輝夜)私の代わりにコイツを倒して!後1回の半荘で負けた方が借金を負う事になってしまっているから……………!

永琳)かしこまりましたわ。

永琳はUの方を向いて言った。

永琳) と言う事で、容赦はしないわ。坊や……………
次回、代打ち永琳との戦い……………!
T o b e c o n t i n u e d……………

第3話 闇への落とし穴

輝夜が座っていた席に永琳が座り、最終戦が始まった。

永琳) ねえ、1ついいかしら？

U) 何？

永琳) さつきみたいなの外野箱割れを狙った戦法を禁止する為にもあるルールを加えたいのよ。

U) なんだ？

永琳) 外野が箱割れしても続行するルール。局数は普通の半荘と同じよ。

U) いいよ。

U) はあつさり受け入れた。

妹紅) (八意永琳……噂では聞いたことがある。確か輝夜の切り札として輝夜が雇っている雀士。腕前は勿論積み込み(局開始時の山積み)の腕も確か。並の相手じゃねえ……)

2人を中心に始まった最後の半荘。Uと永琳は互いに振り込むことなく、点数を増やしていく。そして南三局。親は鈴仙。

妹紅) (Uがトップ……このまま逃げ切れば……！)

現在、1位は42000でU。2位は永琳で28000。3位は鈴仙で18000、4位はてんで12000。確かに逃げ切れればUの勝ち。

U) リーチ。

U、聴牌。手牌は萬子は2、3、4、1枚ずつ、6の暗刻。筒子は、4、5、6、1枚ずつ。索子は2の暗槓。東単騎待ち。すると永琳は自らの山が引かれ始めた時に動いた。

永琳) ポン。

Uの番を飛ばす。そしてツモ切り。

てゐの後のUのツモ。西である。しかし……

U) 嵌められてしまったか。すまねえ妹紅さん。振り込んでしまう。

妹紅) え？

Uは西を切る。永琳は待ってましたとばかりに宣言した……

永琳) ロン。跳満。

ロン上がりを……………

妹紅) 嘘だろ……………Uが振り込んじゃうなんて!?

輝夜) (流石永琳、私達を寄せ付けすらしなかったこのガキを振り込ませた……………!)

永琳) これで逆転。

永琳が1位で40000、Uが30000で2位になってしまった。

永琳) (さあ、絶望してるかしら?)

永琳はUの顔を見た……………しかし、Uは突如として……………

U) ふふふつ。

笑った。

永琳) 自暴自棄になったのかしら?

U) いや、惜しかったなって思ったよ。

永琳) なんですって?

U) それがオーラスで起きたなら僕もどうしようも無かった。でもな。南三局でこれをやった事は僕にはまだチャンスが残っている。事を教えてくれたようなもの。

永琳) でも、貴方が勝つには満貫をツモるか、私から5200の直撃を奪う事。そんな事が都合よくオーラスで出せるかしら?

U) 面白い。出して見せよう。

こうして、オーラスの準備を始める。

永琳) (気味が悪いわ。何故この坊や、ここまでの自信があるのかしら……………?)

永琳は悩んでいた。そしてここからUの反撃が始まる……………

To be continued……………

第4話 逆転のロン牌

オーラス。賽の目は4で、ドラは一萬。親は永琳。Uは永琳から5200の直撃または、満貫をツモアガリすれば逆転。しかし、永琳。4巡目にして、手が良い。なぜなら彼女にはドラとなる一萬が4枚も手にあるのだ。更に二萬、三萬と順子と暗刻が同時に完成して現在リャンシャンテン。(※シャンテンとは聴牌までの形に必要な形の数の事。この場合は後2つ形が完成すれば聴牌となる。)

永琳(これで坊やはドラに頼った打ち回しは出来なくなつたわね。裏ドラも頼れるものではないし、かと言って断么や白、發なんかの役牌も、(※白、發、中は自分の風に関係無く、刻子に出来れば役になる(鳴きでも可))今は發と中と西が3枚切られて、南場の時のみどの風でも上がれる南は、ウドンゲが鳴いてもう形に出来ないから。字牌を用いる作戦は既に焼け石に水。でも、本当に逆転する気なら………何をしてくれるのかしら………坊や。)

そして11巡目。

永琳(四索をツモったわね。まあ要らないし、坊やに聴牌の気配も無い。切りましょうか。)

永琳は四索をツモ切りする。

U ふふふつ、待ってたぜそれを。

永琳(な………なんですって!?)

U)カン。

Uは四索を明カンする。しかし、Uの後ろにいた妹紅には分からなかった。彼の手配は萬子は2、3、4、筒子は4が3枚、5、7、8が1枚。索子は7が1枚、残りの3枚が今カンした四索。

妹紅(今更カンしてどうするんだよ!ここは黙って断么込の裏ドラに賭けたリーチが来るまで待つべきだろ!?)

そしてシンドラ表示牌を表にする。

永琳(四筒って事はドラは五筒。私には関係無いわね。)

確かに永琳には関係ない………か。

妹紅(なっ?!?ドラが付いた………?!?Uの奴………これを狙ってや

がったのか!?)

リンシャンハイは六筒。

妹紅) (う……………!?!間違いねえ……………! Uに運が乗っかってやがる……………!)

Uは七索を切り聴牌。五、八筒待ち。しかしこの手で逆転する為には、永琳が新ドラの五筒を切ること……………つまり永琳から直撃を奪わなくてはならない。所が永琳にはUの狙いが断么、しかもシンドラ狙いである事は見えていない。そして直後、永琳シンドラである五筒をツモる。

永琳) (Uの捨牌からして……………筒子は1、2、3、7、9だからやや不安はあるものの、通るかしらね。)

永琳はなんの躊躇いも無く五筒を切る。

U) ふふふつ。出しやがった。

永琳) まさか……………!?!

U) アンタは長年の経験からこれは無いって気持ちで切ったんだろうけど、僕にはそんな通りは通らない。上がりだ。

Uは手牌を倒し見せる。

U) ロン、断么、ドラ2で5200。逆転だ。

永琳) なんですって……………? 私が……………振り込んだ? しかも坊やの逆転の目に……………?

永琳はショックを受けていた。逆に妹紅は借金帳消しが約束され、安堵し椅子に座り、タバコを吸う。

妹紅) 助かった……………これで店の借金は帳消し……………! 私の命は……………このガキの……………Uのお陰で助かった……………)

Uは妹紅に近づき言う。

U) 焼き鳥くれ。勝利祝いに。

妹紅) わ……………わかった!

妹紅は直ぐに焼き鳥作りに走る。

輝夜) お……………覚えてなさいよ!

輝夜は捨て台詞を吐き、失意の永琳を連れ、外野の仲間達と共に店を出て行った……………それと同時に妹紅は焼き鳥をUに出す。

妹紅）あいよ。今日は私の奢りだ。遠慮せずに食ってくれ。

妹紅は感謝の形として、沢山の焼き鳥を振舞った。

妹紅）しかし、1つ聞きたい事がある。

U）何？

妹紅）お前最初から断么、ドラ2を狙ってただろ？なんであそこでカンしたんだ？

確かに永琳達の手牌を見ていない妹紅からすれば疑問になる。Uは口を開いた……………この続きは次回……………

T o b e c o n t i n u e d ……

第5話 人間の野生本能

U) 妹紅さん。永琳の手牌を見てくれ。

妹紅) あ、ああ。

妹紅は永琳の手牌を見た。

妹紅) なっ!?! ドラ4……………!

U) ほらね。まず僕かカンした理由。それはシンドラを出したかった。

妹紅) でも、都合よくシンドラに四筒が出てくるか?

U) リンシャンハイは運だ。でもシンドラはすり替えた。

Uは手を広げた。すると中から牌が出てきた。九萬だった。

妹紅) なっ!?! そんなもんどつから!?

U) 兎耳の女……………鈴仙っていったかな? そいつが南を鳴いた時、そいつの最初の捨牌四筒を拾い、手に握った。そしてシンドラをめくる時に、もう1人の打ち手の……………てあつて奴の方から、内側に手を動かしてすり替え、めくった。

妹紅) まさか永琳のツモ切りした五筒もか!?

僕がカンした時、リンシャンハイを取りに行つた後、てゐが捨てていた、シンドラを、すり替えた本当のシンドラ表示牌とすり替え、最後にわざとツモしている山のスレスレに手を動かし、僕の方にしか見えない方で、永琳の次のツモる場所に、持ってきたシンドラ牌をすり替えた。つまりこの九萬は永琳が本当はツモるはずだったって事。

妹紅) でも、永琳がシンドラを抱える可能性だつてあつたはずだろ!?! なんで落ちるって分かつたんだ?

U) 彼女の南三局のやり方。あれを見ればそこそこ長い打ち手なのは分かる。僕は確かにあれで跳満に振り込んでしまったが、それと同じに少なからず相手に振り込ませるスキルがあると分かつた。それを信じ、僕は最後のオーラスに臨んだ。ああ言うのはリーチやら何度も鳴けば、その弱点を利用した上がりをしてくる。だから敢えて鳴きをせず、本当に必要なシンドラをめくる為のカン以外は目立つた動き

をしなかったのさ。そうすれば、永琳は長年の経験と、僕のあまりにも遅い動きからこう考える。「通る………！」ってね。

妹紅は黙って聞き入っていた。それ程Uが麻雀の本質、裏世界での生き残り方を知っているただの青年ではなかったと理解させられたのだから………

U) さて………と、

焼き鳥を食い終わったUは席を立った。

U) もう二度と借金なんかするなよ？妹紅さん。

妹紅) 待て！何処に行くんだ!?

U) しばらく放浪する。僕はこんな事で満足してはいけない。

妹紅) お前………！まだ若いだろ!?!お前にはまだ未来がある筈だろ

!?

U) 未来………ね。興味無いな。

Uは暗闇の中へと消えた。こうして、Uは幻想郷で一時伝説となった。だが、彼は10年の時を経て、再び幻想郷に姿を現したのだった………

To be continued………

第6話 2人のU

あれから10年、夢見たいなUの話は都市伝説扱いされていた……かに思えたが、最近、Uが星熊勇儀がリーダーとして動いている暴力団、星熊組が代打ちとして雇ったと言う話が人里に飛び交った。そして、この話がかつてUの闘牌を見ていた妹紅の耳にも入っていた。彼女は建て直した焼き鳥屋で静かに店を営んでいた。特に借金もしていないし、何かが大きく成功した訳でもない。至って平凡。

妹紅) Uが、星熊組に……か。私には信じられないけどな。

妹紅) この事をネタにした新聞をゴミ箱に投げ捨てた。

妹紅) 確かにアイツはおつかないし、打ち筋も独特過ぎて、怖いけど……アイツは暴力団に味方するようなやつじゃない。確かに私は一晩しかアイツの性格を見ていないから、断言出来る訳では無いが、私にはアイツは優しく見えた……

その時、店のドアが開いた。

妹紅) なんだ、お客さん? もうラストオーダーの時間過ぎてるんだ。また明日来てくれ。

?) ふふふつ、相変わらず時間厳守だね。ま、悪いことでは無いんだがな。

妹紅) お前……Uか!?

なんと店に入ってきたのは、かつて妹紅を救った伝説の男……Uだった。

妹紅) (間違いない……確かに少なからず見た目は変わっているが、雰囲気、喋り方なんかもUと同じ……) なあ、お前、最近星熊組に加担しているんだって?

U) 何の話だ?

妹紅) え……だってこの新聞見ろよ。

妹紅) ゴミ箱に投げ捨てたばかりの新聞をUに見せた。

U) ……これ、僕じゃないよ。偽者じゃないか?

妹紅) なんでそれを……

U) 恐らく……八意永琳を倒してしまったからだろうな。

そう言うと、Uは煙草を吸い始める。

妹紅）お前、もう20歳過ぎてるのか？

U）まあな。僕もガキじゃない。

妹紅）ところで話を戻すが、永琳を倒した事が何故関係しているって考えたんだ？

U）後で知ったんだが、八意永琳は幻想郷では名の知れた打ち手だったみたいでな。そいつが負けたってなれば少なくともそれを知ってる世間は騒ぐ。そして、僕の名を語る輩が現れる。

妹紅）それってどういう……

すると、また店のドアが開いた。そこには新聞で見たUが立っていた。

U？）そういう事だ。

U）ほらな。永琳を倒した事で、僕の偽者はいる。目の前にさ。

偽U）俺は確かにUの話を聞いて、Uの名を語っている。U、俺と勝負しろ。もちろん逃げることは許さん。

するとドアの前には角を生やした黄色の髪の毛の背の高い女性が立っていた。

U）成程、組長のお出ましって事ね。

彼女こそ、星熊組組長、星熊勇儀であった……！

T o b e c o n t i n u e d ……

第7話 偽者の鬪牌

U) つまりやらないなら力づくってことか？

偽U) そういう事だ。お前には負けてもらわないと、俺が本物になれないんでな。

U) 勝負の理由がくだらないね。これじゃあ僕にはメリットが無い。

勇儀) まあ、そう言うと思つてな。お前が買った時の要求を今求める。

U) そうだねえ。じゃあ僕の名を語るこいつの首を貰おうかな。

偽U) なっ……………そんな勝負してたまるか!!

U) なんでだ？ギャンブルなんて生きるか死ぬかだ。負けて指が飛ぶなんて裏の世界じゃ常識。そんな覚悟もないんだな。

勇儀) まあ、待て。ここで良い代打ちを私達は失いたくないんだ。だから……………お前が勝てば望む金を渡す。

U) じゃあ……………1億。それをこの店に寄付しろ。

妹紅) えっ……………!?

勇儀) よし、受け入れてやれ。

偽U) わ……………分かりました。

こうして、麻雀半荘勝負が始まった。

外野の2人は星熊組内の麻雀の腕が実力がそこそこの若者。東場、

偽Uは、圧倒的な引きの良さで単独トップをキープしていた。一方のUは、振り込むこと無く動いていた。

偽U) どうだいUさんよ。俺はあんたより引きが良い。

U) ………………確率の麻雀か。

妹紅) 確率の麻雀？

U) コイツは思った通りの牌の引ける確率を理解している。少なくとも自分の山の牌は理解しているだろう。チラッと見てから山を作っているみたいでな。

偽U) 流石だな、その通りだ。俺はお前が現在何シャンテンなのかもある程度理解している。

U) 表の世界では天才って事か。くだらないね。

その後も偽Uは、Uから直撃は奪えなかったが、周りの連中を押し退けて、単独トップだった。

そして、オーラス。親はUで、トップの偽Uは7万点を稼いでいた。

偽U) どうした？早く切れよ。

U) 偶然も重なるもんだねえ。

偽U) は？

Uは、1巡目にして、手牌を倒す。

U) 天和、四暗刻。(※天和は、親の1巡目の時点では、形が出来てい
るなら、上がれる役満。この役に限り、例えば手が役なしでも上がる事
が可能。四暗刻は、暗刻(鳴いていない刻子を4つ+頭を揃えること
で完成する。暗カンは可。なお、単騎待ちで上がった場合はW役満扱
いとなり、96000となる)96000点さ。(※役満は、親なら4
8000、子なら32000。もし役満がふたつあるなら96000
となる。但し、役満は役満以外の役、ドラの点をプラス出来ず、上が
りの点数は役満が優先される。)

偽U) 馬鹿な!?!お前……:燕返しをしたな!?(※燕返しとは、自ら
の手牌と、山に予め仕込んでおいた14牌とすり替えるイカサマ)山
が最初より微かに動いている!

U) ふーん、見破ったんだ。裏の世界なら当たり前の特技が見切れ
ただけ、天才のようだな。

偽U) 黙れ!お前の反則負けだ!

U) だけど、甘いかな。後ろの星熊勇儀って奴の方がもつと僕の動
きを見ていたぞ。

偽U) え?

勇儀) そいつは、はじき(※捨牌の上を下に持っていく、本来捨てる
牌が既に捨てられていて、下に弾いた牌を今捨てたかのように見せ
るイカサマ)やぶっこ抜き(※自らの不要牌2つを縦2つにし、自ら
の山の片端にその牌を置き、代わりに予め仕込んでおいた逆端の牌を
手に持っていくイカサマ。別名左手芸)なんかを私に見せつけるよう
にやってたぞ。

U) だけど、アンタは介入しなかった。アンタは裏の世界を見て来ていたからな。

勇儀) そうだな。

偽U) 何故です!?

U) これが当たり前前の世界に、ルールは飾りだからさ。

この続きは次回………

T o b e c o n t i n u e d ……

第8話 闇世界の審判

偽U) ルールは飾り……だど!?

勇儀) 裏の世界じゃ見切れなかったイカサマはやられたものがアホの世界。現場を抑えることは出来ない。この世界じゃ現場を抑えられて始めてイカサマとなるからな。ま、コイツは本気で打った様子もなさそうだが。

偽U) え!?

勇儀) お前は泳がされたんだよ。だから表の打ち筋が通じた。そして、南四局見え見えの燕返しをすれば完了。って事だろ? 本物のU。

U) 何もかもお見通しか。

勇儀) 昔、裏で打つてたものでな。ま、今は金が有り余っているから引退したがね。そこら辺のイカサマなんかは私はよく分かる。そして何故こんな見え見えの事をしたのか。それはお前に裏の世界を知ってもらう為だ。お前に裏の世界の沼に落ちて欲しくない為だな。

妹紅) そうか……Uは優しい面もある。こいつの事を心配しているUもいるのか……

U) そう同情してしまうのは、仕方の無い事さ。だから敢えて甘くした。こいつ相手じゃ死と隣り併せの麻雀は打てそうにないんでな。

偽U) 黙れ! お前、反則負けだからって開き直るな!

U) ……なら賭けをしようか。

偽U) は?

U) 僕はこれから1人で4つの山を作る。

偽U) それじゃ、ただの麻雀……

そして、その後賽子を投げ、出た目から通常の麻雀でその目が出た時に親が取る牌をとる。そして、お前はそれが天和がどうかを答え、その答えが当たりならお前の勝ち……ってギャンブル。もし外れたら1億をこの店に寄付しろ。

偽U) あ……ああ。受けてやるよ。

こうして、Uは山を作り始める。

偽U) (出る訳が無い……………！天和の出る確率なんて極めて低い……………燕返しでもしなきゃ出るものか！)

意外と知らない者が多いが天和は33万分の1の確率で出ると言われており、これは61年に1度上がれるかの確率と言われている。

山を組み終わったUは、賽子を投げた。出目は2。そして通常の麻雀で2の目が出た時の親がとる牌を取り、それを理牌(※自分の分かりやすいように牌を並び替える事)した後、牌を伏せた。

U) では問題。この手は天和である。○か×か。

偽U) 決まっている！天和では無い！

U) ……それでいいか？

偽U) 二言は無い。

Uは伏せた牌を開いた。

妹紅) えっと……………順子が3つ。刻子が1つで、頭がある……………ってことは!!

偽U) なっ……………！天和……………！

勇儀) やっぱりな。本気を出して嫌がらなかった。

U) まあ、これは簡単な方だ。2人いないと出来ないから面倒くさいけどな。後は賽の力加減をマスターすれば、時間をかけて出来る……………って訳だ。

勇儀) 流石だな。噂以上だ。

勇儀は、妹紅に1億円を渡す。

勇儀) 報酬金だ。感謝はUにしてくれ。

妹紅) わ……………分かった。ありがとうな、U！

U) 10年前の恩返しだ。

勇儀) それと。お前に折り入って話があるんだ。

勇儀の話とは……………この続きは次回へ……………

T o b e c o n t i n u e d ……

第9話 地底の麻雀

U) なんだ？

勇儀) 実は、今夜地底の古明地家と麻雀打つことになってるんだ。

U) 幾らだ？

勇儀) 3億。それが賭け金だ。

U) 相手は代打ちなのか？

勇儀) いや、賭け主自身が打ちに来る。

U) 古明地さとりがか？

勇儀) そうだ。受けてくれるか？

U) ……まあ、いいよ。

勇儀) 恩に着る……………！

そして夜、地底の地霊殿……………

勇儀) こっちだ。

U) が到着した時に、既に偽Uが打っていた。

偽U) 来たか。

その時、東3局。トップは偽Uで37000点。2位が今回の賭け主古明地さとりで23000点。3位に火焰猫燐22000点。4位に霊鳥路空で18000点。Uは近くの席につき、麻雀を見る。

偽U) 奴の打ち筋を見ても無駄だ。俺がオーラスまで交代無しで打ってやる。

さとり) ……

U) ま、せいぜい頑張れよ。

この時Uは何かを理解していた。そして彼はさとりが自分が何を考えているのかももう分かっていた。

そして、14巡目。

さとり) ロン。断么のみ。

古明地さとりが上家の(※自分の右隣の人)安い手でロン。しかし……………

偽U) 悪いな古明地さとりさんよ。頭跳ねだ。(※頭跳ねとは、ロン牌を捨てた人から右回りに数えて、1番最初に該当する人物の上がり

以外を無効にするもの。しかし近年のルールでは、2人以上の上がり
が出来るダブロンが採用される) 5200。

勇儀) 絶好調のようだな。家の代打ち。

U) いや。コイツは次の東四局で潰れるさ。いとも簡単にな。

その時、古明地さとりは2人に何かを話している様子だった。そし
て迎えた次局。東四局。偽U、まさかの国士無双聴牌(※国士無双と
は、萬子、筒子、索子の1、9と字牌7種類を1つずつ使う役満。(頭
は同じ牌2つでおk) 西待ち。

偽U) (来た……! 来れば圧勝! 本物のUの出番なく……! こ
れで本物より俺が最強になる!)

因みに親は霊鳥路空で賽の目は4。霊鳥路空の捨てた後、偽Uは早
速四萬を切る。

さとり) ロン。

偽U) は?

古明地さとり1巡目にしてロン宣言。確かに形は出来ている為上
がり。地和である。(※地和とは1巡目に捨てられた牌で上がる事が
出来る役。但し、自分が既にツモっている場合と鳴きがあった場合は
消滅する) そう。古明地さとりは霊鳥路空、火焰猫燐と協力して積み
込み、望む賽の目を出し偽Uがいつも簡単に捨てそうな国士聴牌の形
に不要な四萬。そして、それを単騎とし、上がる手を山の中で作っ
ていた。これが古明地さとりの実力。それも仲間を利用した形のもの
である。

さとり) 32000。逆転ですね。

こうして、1位は古明地さとり、55000。2位が霊鳥路空で1
8000。3位が火焰猫燐で16800。4位が偽Uで10200。

偽U) あ……ああ……!

偽Uはまさかの地和に心が折れてしまった。

勇儀) すまねえ。代打ち交代だ。

さとり) むしろ待ってましたよ。その為にその代打ちのメンタルを
破壊したんですから。

U) そうかい。

こうして、UVS古明地さとの戦いが幕を開ける……
T o b e c o n t i n u e d ……

第10話 地獄の開幕

すると突如Uはさとりに要求した。

U) とりあえず勝負は受けるんだけどさ。自動卓でやってくれないか？

その時、星熊組側は勇儀を除いて驚いた。そう、自動卓は幻想郷でも高価なもので、雀荘でも1店に1つあればいい方で、これを持ってある家は未だに数少ないのである。

さとり) 何故でしょうか？

U) さっきのような積み込みをされたら溜まったものじゃないんでね。

さとり) 見抜いていましたか。

U) それに、古明地家は金持ちとも聞いた。麻雀勝負で勝ち続けているアンタなら1台くらい持っていてもおかしくないはずだ。

さとり) いいでしょう。今の点数のまま南場再開で受けてくれるのであれば。

U) かなり良心的だな。

さとり) まあ、どっちみち点数は同じですからね。

U) よし、やってやろう。

さとり) 自動卓は別の部屋にあるので、そこまで行きましょうか。こうして、全員場所を移動し、自動卓のある部屋へと入る。

さとり) じゃあ、始めましょうか。貴方が親です。

U) は全自動卓のスイッチを押す。すると自動卓の中心がへこんだ。U) 確かこれに机の牌を入れればよかったんだよな。

U達は牌を入れ、全ての牌を入れたのを確認し、スイッチを押す。すると自動卓の中心は元に戻り、今のものとは違う色の牌が出て来た。そう、自動卓での麻雀は牌を2セット使う。片方で打ってる間に、自動卓内で前局で使用した牌がかき混ぜられている。更に出て来た牌は既に山となっている。これにより燕返し、ぶっこ抜きと言った山を使用するイカサマは出来なくなる。

U) 噂には聞いていたが、すごい機械だな。

そして真ん中の先程とは別のスイッチを押すと、賽子が回り、目が出た。目は8。

さとり) さあ、後はいつもの麻雀と同じですよ。

そう、こうすることにより、半荘1回の時間が少し減る。まあ、一局の時間は対して変わらないが。

さとり) ああ、そうだ。貴方はこの麻雀にいくらかけられてるか知ってますか？

U) 知らん。

さとり) ……10億です。

そう、先程の1億など端金に思える10億である。

さとり) これだけあれば賢く使える人間なら、一生遊べますよ。

U) なら何故アンタはそうしない？

さとり) 刺激が欲しいんですよ。私の人生には。生きるか死ぬか。

正直お金を集め過ぎて人生何も面白くないんですよ。ならこんな事もありますか……ね。

U) 金に溺れた訳ではなさそうだが……まるで亡者になりたくないような感じだな。

さとり) ええ。私の生き様は亡者ですからね……

そう、さとりは金を得たからこそ、自らの全てを知っていた。次回、南場スタート……

To be continued……

第11話 か細い橋

南一局6巡目……………

「霊鳥路空が六萬を捨てる。」

さとり(ロン。断么のみ。

さとりの点はこれを含め56000点。対するUは10200点。
さとり) さあ、これで貴方は連荘での逆転は出来なくなった。現在の点差は45800。逆転するには、たった三局で私から22900を奪い取る必要があります。下手にツモしたり外野に振り込ませれば箱割れしますからね。

勇儀(「流石の実力だ。U、逆転できるのか……………?」)
するとUは笑った。

U(「ふふふつ……………面白い、か細い橋ってわけね。渡って見せよう。その橋。」

南二局……………

さとり、断么聴牌四索七索待ち。

さとり(「ドラの九萬を切れば、聴牌。既に2枚切れてますし、これでロンは少なからず無いでしょう。」)

さとりは迷わず九萬を捨てる。

U(「フフフ……………待っていたのはその牌だ。」

Uは手牌を倒す。

U(ロン。清一色、ドラ2。倍満だ。

さとり) なつ……………九萬単騎……………やられました。

Uは無法とも言えるドラ単騎で倍満直撃。16000点。

さとり、40000点、U、26200点。空、17000点、燐、16800点。

南三局……………

さとり(「このまま直撃は不味い……………しかしこの人からロン上がりは出来そうにない……………なら。」) お燐。

お燐) はい?

さとり) 今暗刻になっている牌は?

お燐) えつと……………六萬です。

さとり) そう。

お燐) あの……………何故でしょうか？

さとり) カンするわ。それに今五萬もある。これをすり替えたら自らの番にカンするわ。それと何シャンテン？

お燐) えつと……………聴牌です。四索単騎。

さとり) わかったわ。

この会話は全てUには聞こえていない。因みに賽子の目は5。さとりは山から牌を引く時、次にお燐が引く牌を四索にすり替える。次にシンドラとなる牌を五萬にすり替える。そして……………

さとり) カン。

さとりはリンシャンハイを取り、シンドラをめくる。狙い通り六萬がドラとなる。そして、確実にロンは無い4枚目の西を切る。次に空も4枚目の北を切る。Uは2萬をツモ切り。そして燐……………

燐) ツモ！断么、ドラ3で満貫！

勇儀) (……………いやられた……………！)

これでさとり36000点、燐24800点、U24200点、空15000点。

U) 成程、上手くやるもんだね。その化猫のツモ、シンドラのすり替え……………やってくれるじゃん。

さとり) これで貴方に残されたのは跳満をツモるか、私からの満貫直撮り。さあ、オーラスの始まりです！

U) いいだろう。だがこれだけは言っておくぜ。僕はお前に勝つ。さとり) 出来るでしょうか？

UVSさとり。遂に残すはオーラスのみとなった……………

To be continued……………

第12話 最後の希望の糸

南四局オーラス……………賽の目は4でドラは南。

さとり(よし、手は悪くない。この手なら断么聴牌までリャンシャンテン。(※2シャンテン)しかし……………ドラがまた、么九牌(1、9、字牌の事)、しかも風牌なのが気がかりですよ。まあお隣がお空辺りが持つてるでしょうね。)

さとりは南を捨てた。

U) ふふふっ……………

さとり) なんですか？

U) カン。

そう、Uはここでカンした。シンドラは東。

さとり(……………しまった！これでUさんは……………風牌、役牌、ドラ4の跳満確定！(※Uの風牌は南))

さとりはあつさとりと跳満確定を許してしまった。更に三巡目。

U) チー。

隣の捨てた五筒を4、6でチーする。更に六巡目。

U) ポン。

空の捨てた三索をポンする。

さとり(くっ、連続鳴き……………しかも役牌だから断么や混全帯么(※混全帯么は1、9、字牌で上がる役。鳴きをしなければ2役として扱う))

そして十二巡目、さとり、シンドラ牌の東をツモる。

さとり(またドラで鳴かれるのも不味い……………なら。)カン。

さとり、二筒をカン。シンドラは三萬。リンシャンハイは北。

さとり(東よりは安全の北なら……………)

さとりは北を切る。

U) ふふふっ、ポン。

なんとU。単騎待ち勝負。そして今切ったのは1萬。

さとり(ここで単騎待ちですって……………!?ダメ、読めない……………！
どれが通るかが……………！)

そう、単騎待ちは当たる可能性は悪いが、逆に現物以外全て当たるおそれがあるたった一点の待ち。だがこれで上がればUの勝ち。つまり誰もUには安易に通ってない牌を切れなくなった。

さとりはガイア2人にサインを出す。

さとり) (できる限り現物を切りなさい……………!)

2人は領き、現物を捨て始める。しかし、さとり達はこのせいで上がりの道を捨てた。3人とも現物の連打。そして、最後、さとり海底牌(※最後のツモ牌)六萬。通ってない六萬。更にさとりの手の全てはUに通ってない牌。

さとり) (不味い……………! 追いつめられた……………!)

現在のさとりの手牌は、萬子が3、5、6が1枚ずつ、9が2枚。筒子は2が3枚、4、7、9が1枚ずつ索子が4、7、9。) 何一つUに通っていない。

さとり) (この中で通る可能性があるのは……………!)

さとりが悩んでいると……………

U) ふふつ、アンタの手の中の1つが……………僕の当たり牌だ。

その発言は本当だが、Uは牌を伏せており、観戦者すらも何待ちかは分からない。さとりは11分の1の確率の中で散々悩んだ挙句、1枚を選んだ。その牌とは……………?

To b e c o n t i n u e d……………

第13話 伝説の鬪牌者

さとり) これなら……………通る!

さとりは強気で選んだ牌を切った。その選んだ牌とは……………二筒だった。

U) ……………

Uの表情は何一つ変わっていない。これでは感情だけで把握は出来ない。

勇儀) まさか……………!

勇儀は何かを勘づいたのか、Uの伏せてあつた単騎の牌を手に取り見る……………

勇儀) そ……………そんな……………馬鹿な!?

勇儀は声を上げ驚いていた。

さとり) ……………まさか!

さとりは勇儀から牌を奪い取り見る。

さとり) ……………なっ!?

さとりは驚きのあまり牌を卓に落とした。そしてUの待っていた待ちが発覚する……………

燐・空) リヤ……………二筒……………!!

U) ああ、ロンだ。ダフ南、ドラ4、跳満。……………逆転だ。

さとり) (ま……………まさか……………私が暗刻で抱えていた二筒待ち……………!?!あ……………有り得ない!)

U) 有り得ないだろ? アンタからすれば。

さとり) ……………貴方、私が二筒を暗刻で抱えてるのを知ってたんですか?

U) ああ。じゃなきやこれで待つわけがない。通ってないと分かりつつも安全だと思える二筒暗刻落とし。単騎待ちつて言うのは本来無法、出来ればやりたくない待ち。でもそうでもしなきや勝てなかった。オーラス、アンタは断么を狙える手の配牌だった。でも僕のドラ南カンでアンタは自信が立ち止まった。次にチー、ポンで意味のわからない手の進め方をする。そして北で意味のわからないポンで意味

のわからない単騎待ち。こうしたらもう安牌の連打はやむを得ないしかし海底でアンタの現物は種切れ。もう自らの勘と運に頼るしかない。で、なんで暗刻を切る結論に至ったか。僕は張った時からこれが来るように水を撒いていた。筒子がある程度撒いてたお陰で切ってくれた……ってのもあったが。アンタが取り乱していた……ってのも理由。アンタは予想外の展開に弱い。ドラ鳴きやポン、チーはまだ沼にはめる為の道。奇想天外の北ポンでアンタはハマる一步前に陥る。そうすれば頑丈そうな暗刻の糸を掴む。罨にしかけた糸にな……

さとり) 私は貴方の掌で踊らされていたわけですか……私の負けです。

こうして、Uとさとりの死闘決着……勇儀達は10億を得た。

勇儀) U、助かった。お前に3億渡す。この報酬なら組の連中も納得するだろうし……

U) ……興味無いね。

Uは席を立った。

さとり) あ、送りましょうか？

U) 要らねえ、僕は今どこに行きたいのかわからないから。

勇儀) ならうちの組に来いよ！お前が退屈しないように……

U) 退屈……ね。僕は今、この麻雀以上の刺激を与えてくれる相手と戦いたい。

勇儀) 何……？

U) 僕の本心が満足していない。その相手を探すために……僕はまたふらつく事にする。

こうして、Uは再び表舞台から消えた。その後、勇儀は彼のその後を妹紅に伝えた。

妹紅) アイツらしいな……

勇儀) 何故アイツらしいと言ったんだ？

妹紅) アイツ、昔から口数が少ないのはもちろんだけど、死にたがってるんだよ。

勇儀) 死にたがる……か。

妹紅)もちろん野垂れ死ぬ事でアイツが満足する事は無い。アイツは自らの戦場で……………全力で打って死にたいんだろうな……………ま、そんな相手はいつ現れるのかね。

勇儀) そうだな。そういえばUからなんだが……………

勇儀は妹紅にUに渡すはずだった3億を渡した。

妹紅) なんでもた金を……………!?

勇儀) 本当はUの取り分なんだがUが興味無いとな。どうせアイツがこれを手にしても浪費するか寄付するだろうからな。Uが世話になつていたアンタに渡す。

妹紅) 全く……………アイツは意味わからない奴だな。

Uは再び伝説となった。誰にも真似出来ない逆転劇。それが彼の代名詞と後々まで語り継がれる事となった……………